

愛知県美術館の概要

1 活動の基本的な考え方

愛知県美術館は、人々が芸術文化に寄せる関心の高度化・多様化に十分応え、また、訪れる人々がより豊かな感性を養うことのできる場となることを目指している。そのため、美術の歴史的な流れを系統的に紹介するとともに、絶え間なく展開を続ける今日の新しい美術動向にも積極的に取り組む。

2 施設

企画展示室（10階）： 3室 1,480㎡
 所蔵品展示室（10階）： 5室 1,400㎡
 ギャラリー（8階）： 10室 3,113㎡

3 美術品の収蔵状況（2023年3月末日現在） (単位：件)

区分	総数			
	購入	寄贈	管理換等	合計
絵画（洋画、日本画、版画、水彩・素描）	1,505	3,172	54	4,731
立体（彫刻・立体、インスタレーション、考古遺物）	213	575	3	791
写真・映像	140	232	30	402
工芸	5	2,187	5	2,197
書跡・資料	61	604	22	687
小計	1,924	6,770	114	8,808

*上記の内 藤井達吉コレクション1,477件 木村定三コレクション3,309件

4 主な事業内容

(1) 美術品の収集

県民の財産となる優れたコレクション形成のため、主に20世紀以降の美術を対象とする収集方針に基づき、美術品収集委員会の承認を経て、購入・寄贈・管理換えにより収集を行っている。購入には、1988年度に設置された美術品等取得基金が充てられている。

(2) 所蔵作品の保存

美術品の保管には、空調や防犯・防災に高水準の設備をもつ収蔵庫を用い、保存・修復専門の学芸員を配して、良好な保存環境の確保に努めている。また学芸員による作品の状態点検を通し、必要に応じて作品の保存処置や修復を行っている。

(3) コレクション展

収集した作品を展示公開するコレクション展は、2023年度については年間を4期に分け、その都度、内容を変えて開催する。展示室ごとに多様なテーマを設けており、このうち一室は「木村定三コレクション室」としている。

(4) 企画展

歴史に残る重要な美術動向や、優れた芸術家の回顧展、古典的・伝統的な形式の美術からジャンルを越えた新しい制作活動まで、美術の幅広い領域を紹介する企画展を、自主企画や他館との連携による共同企画などによって開催している。

2022年度展覧会	会期	入場者数
ミロ展——日本を夢みて	2022年4月29日(金・祝)ー7月3日(日) 57日間	53,375人 (一日平均936人)
国際芸術祭「あいち2022」	2022年7月30日(土)ー10月10日(日) 73日間	46,858人 (一日平均641人)
ジブリパークとジブリ展	2022年10月29日(土)ー12月25日(日) 51日間	110,179人 (一日平均2,160人)
展覧会 岡本太郎 Okamoto Taro:A Retrospective	2023年1月14日(土)ー3月14日(火) 56日間	112,264人 (一日平均2,004人)

【2023年度企画展】

展覧会名	会期	概要
近代日本の視覚開化 明治—— 呼应し合う西洋と日本の イメージ	4月14日(金) ～5月31日(水) 41日間	江戸時代から明治という新時代への転換は、政治経済体制だけでなく、人々の生活や文化全般を含む、様々な状況を変容させました。造形活動の領域でもまた多彩な動向が生まれ、展開を見せました。西洋から入ってきた情報や技術、イメージは、当時の日本人々に新たな視覚——新たなものの見え方や見方、見せ方を開きました。「文明開化」は「視覚開化」でもあったのです。本展では明治期の美術、工芸を多数所蔵する神奈川県立歴史博物館のコレクションを中心に、他の美術館や博物館・個人蔵の作品や資料を加えて、明治期特有の表現がみられる絵画・写真・印刷物・彫刻・工芸などを集結させます。時代の転換期に和洋の化学反応によって生まれた様々な表現を、そして、明治美術の新たな一面をご覧ください機会となるでしょう。
幻の愛知県博物館	6月30日(金) ～8月27日(日) 51日間	明治初頭にたびたび博覧会場として使われた名古屋・総見寺の境内に、1878年に誕生した博物館は、5年後に「愛知県博物館」と改称し、県立の博物館となりました。その後も商品陳列館などと名を変えながら活動した同館は、現在私たちがイメージする博物館とはずいぶん異なり、美術工芸、歴史、衛生、教育、農林水産、工業、鉱業など幅広い分野の作品や商品、資料を収集・陳列・販売し、動物園や温室まで備えていました。本展は、戦後日本各地に博物館や美術館が建設されるなかでいつの間にか忘れられてしまった、殖産興業に比重を置く総合的な産業技術博物館としての、ありえたかもしれない「愛知県博物館」について考察するものです。

安井仲治展	10月6日(金) ～11月27日(月) 46日間	日本の写真史の中でも傑出した存在として知られる安井仲治（1903－1942）。短い活動期間にもかかわらず、安井は1930年代までに花開いた様々な写真表現のスタイルを吟味し、多様な対象にカメラを向け、現実の断片の中から強烈な象徴性をつかみ出しました。その表現により、彼は当時の写真界に大きな足跡を残したうえ、戦後の多くの作家に影響を与えています。本展は、戦災を免れたヴィンテージプリントとネガの調査をもとに、複数のネガの合成やトリミングなど、印画の段階で施された創意工夫の解明を試み、安井の写真家としての活動をより実証的に描き出す機会とします。
-------	--------------------------------	---

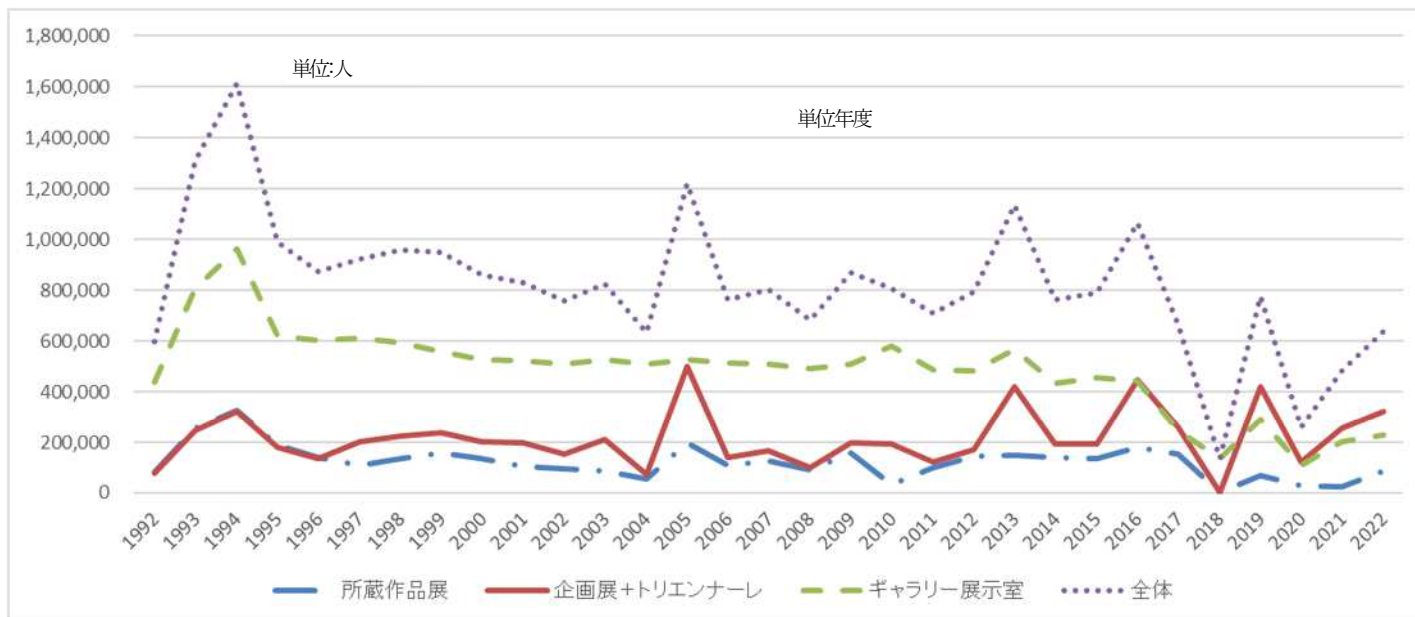
(5) 普及・教育事業

- ア 企画展・コレクション展に合わせた記念講演会やギャラリートークの開催
- イ 申し込みを受けた各種団体、学校に対する、展示解説やガイダンス
- ウ 学校の教師を対象とした鑑賞学習交流会やワーキンググループの実施
- エ 小学生・中学生・高校生向け鑑賞プログラムやオンライン授業の実施
- オ 視覚障がい者向け鑑賞会の実施
- カ 愛知県陶磁美術館、県内市町村との共催による移動美術館の開催
- キ 学芸員資格取得のための博物館実習の実施
- ク 友の会との連携、会員対象の動画配信

(6) 映像事業

映像表現の可能性を拡張するような実験的動向に着目し、「アートフィルムフェスティバル」などの上映会の開催や、オリジナル映像作品の制作などを行っている。

5 入館者数推移



企画展の入館者数の上位4企画展：①2005年ゴッホ展 423,745人②2017年ゴッホとゴーギャン展 225,041人③2021年ジブリ大博覧会 206,345人④2000年セザンヌ展 171,060人

6 ギャラリー展示室利用状況

(1) 2022年度の美術館ギャラリー運営状況

2022年度の美術館ギャラリー展示室の利用申込みは143件であったが、追加申請が4件あり、147件の利用許可をした。なお、許可後のキャンセルが4件（うち新型コロナウイルス感染症拡大防止を理由とするキャンセル3件）あり、開催された展覧会は143件に留まり、入場者数は229,304人であった。

開催期	仮申込件数	ギャラリー利用許可件数	ギャラリー利用件数
2022年度 (4月～3月)	143件	147件	143件

(2) 2023年度の美術館ギャラリー運営計画

2023年度の美術館ギャラリー展示室の利用申込みは169件であったが、追加申請が9件出たため、178件の利用許可をした。

開催期		仮申込件数①	ギャラリー利用許可件数②	ギャラリー利用予定件数	申込倍率①/②※
		件	件	件	倍
2023年度 (4月～3月)	継続利用	162	164	164	0.98
	新規利用	7	14	14	-
	計	169	178	178	0.94